

■ 行動計画

I 理念の継承（グランドデザインの総括と展望）

1982年の当協会設立時、『グランドデザイン基軸』（第1次）として先人たちの高い志による「大阪 21世紀計画」が策定され、以来、当協会は一貫して文化による社会の活性化を掲げて活動してきた。

『新グランドデザイン』（第2次）では「文化立都」という概念を提唱した。（文化立都宣言）それにより、大阪の深い歴史を鑑み、これから目指すべき都市像を「博物館都市」、「劇場都市」、「競技場都市」と掲げ、「文化立都」のイメージを明確化。その実現に向けての要素を提示した。

『グランドデザイン（第3次）』では「3つの指針」「8つの都市像」を掲げ、とくにその中の『水の都・大阪の創生』については、当協会が先んじて「水の都・大阪再生の戦略」を提案し具体化した。2009年の水都大阪シンポルイベントに至るまで当協会が推進母体となり、行政や民間が連携し大阪の河川の風景は大きく改善し、国際的にも遜色のないレベルに達した。河川クルーズが有力な観光商品化し、都心の川辺に立地するマンションも増え、都心居住を推進した。市民を巻き込んだムーブメントの成果と言えよう。

組織変革を経た『グランドデザイン（第4次）』では、「文化立都」を不変の理念として継承し、広域的な視点で新たな目標を付加し、当協会の立場から関西・大阪の各方面へ提唱し、その活動にも新たな指針を加えた。そして、「2020年東京オリ・パラ～文化プログラム」の活動目標数値を参考に関西の目標数値を独自に設定し、事業の効果検証を行うこととした（しかしながら、新型コロナ禍によるオリンピック・パラリンピックの開催延期や文化プログラムの中止などで目標値の前提が崩れ成果検証が不可能となり、この5年間の事業実績を検証するに留めた）。尚、この第4次から該当期間中の事業計画も具体的に明記している。

今回の『グランドデザイン（第5次）』では、「文化立都」の理念を時代の変遷に沿った解釈に変更し、第4次の方向性を踏襲する。新型コロナウイルス感染症がもたらした新たな価値観や行動様式の変化を受け入れつつ、文化の持つ力を再認識して新たな事業に取り組むとともに、「2025大阪・関西万博」にも当協会の立場から対応していく。

II 40周年プログラムの推進

当協会は2022年に設立40周年という節目の年を迎えた。また、2024年は「万博記念基金」の承継、および「アーツサポート関西」創設10周年にあたる。これまで20周年、30周年の節目には、それに相応しい記念の催しを実施してきた。

今回、40周年にあたっては過去とはスタンスを異にし、一度きりの記念行事ではなく、この機を契機に持続可能な新たな事業に取り組んでゆくスタート年と位置付けることにした。これまで協会の事業には単独で主催するもの、他の幾つかの団体と実行委員会等の運営組織を組成して開催していくものに大別できたが、今回、外部の施設や自治体とのコラボレーションにより持続的に展開していく事業を新たに導入する。

一つは美術館等と連携し、関西の若手アーティストに作品発表の場を提供する事業である。2022年2月に開館した「大阪中之島美術館」のフロアの一角を使用し、一定期間、アーティストの作品展示を行う。将来が有望な若手アーティスト達が本格的な美術館で作品を展示し、多くの観覧者の目に触れることで今後の創作活動におけるモチベーション高揚に資するべく、2022年以降、継続して実施する。

いま一つは、小学生とアーティストとの触れ合いを通して、子供たちの感受性や創造力を育み、アーティスト

には活動の場を提供しようという取組みである。大阪府下自治体の教育委員会と連携し、授業の中でアーティストとともにワークショップ形式で創作活動に取り組む。また、この取組みに対する教育関係者による評価システムを設け、一つ一つの活動の効果を検証して以後の計画に反映させながら取組みの充実を図っていく。既に 2021 年度後半から開始しており、2022 年度以降、取組みを本格化させていく。

Ⅲ 助成と顕彰

(1) 万博記念基金事業による助成と人材育成

国際相互理解の促進に資する活動や文化的活動に対して、日本万国博覧会記念基金は 1971 年の創設以来 50 年、世界 114 カ国、約 4,700 件、総額約 194 億円もの助成を行い、多大なる貢献をしてきた。今後も基金の運用益で助成事業を継続していくことが基本的な使命である。

昨今の低金利による運用益の減少もあり、助成の対象を 1970 年大阪万博の原点である「日本万国博『開催の意図』」の趣旨に適った国際相互理解促進に資する活動のうち、国際文化交流・国際親善に寄与する活動と教育・学術に関する国際的な活動に絞り込んで SDGs への貢献も視野に入れながら、1970 年万博の理念である「世界の調和ある発展への貢献」を図る。更に、若い人材に思い切った投資を行い、将来「日本と海外の懸け橋」になるような人材を育てるために新たに設けた支援制度の充実を図る。詳細は「次世代の人材育成」に記す。

また、助成金贈呈式や助成事例発表会をメディア、学識経験者、財界関係者などを招いて定期的に行うことで、助成事業の「見える化」を進め、万博記念基金事業の存在感を高める。また、実地調査や事後評価を徹底し、助成の効果や妥当性を絶えず確認し、助成先の評価に反映して行く。

(2) 大阪文化祭賞等による顕彰

大阪府・市とともに運営する「大阪文化祭賞」は、関西・大阪で芸術文化に優れた業績を上げた人々、プロジェクトを表彰して顕彰する取組みである。活動紹介の場を設けて広く社会に周知を図っていくとともに、より一層内容の充実、ブラッシュアップを検討していく。

(3) アーツサポート関西によるアーティスト支援

関西・大阪における寄付文化（タニマチ精神）の醸成と文化支援の安定財源の確保を目指し、民の寄付による文化支援を一層推進する。文化力を底上げするための効果的な助成とともに、パトロンプログラム開催、助成事業発表会などを通じて助成先とサポーター（寄付者）との交流機会などを設けて助成対象者への激励とサポーターの理解促進に努めるほか、文化・芸術活動に積極的な団体等にアーティストを紹介する「架け橋」的な役割も担う。

さらに、次代を担うアーティストの発掘・育成、伝統文化の後継者育成とともに、鑑賞者の底辺を広げる人材育成にも取り組む。

IV 次世代の人材育成

これまでも種々の人材支援事業を実施してきたが、40周年プログラムにも記載の通りアートを介する将来の人材の育成や日本文化自体に関わっていく海外の若手人材の支援強化など、長期的視点で取り組む事業を強化していく。

(1) 奨学金制度の充実（日本伝統文化研究助成）

万博記念基金事業の趣旨に沿った国際相互理解促進に資する活動のうち、将来「日本と海外の懸け橋」になるような人材の育成にも視野を広げ、日本の大学院で日本文化を研究する留学生に対する奨学金制度を2021年度から設けた。基金の運用状況を見ながら支援を充実、発展させていく。

(2) 学校アートプログラムの進展

アートに親しみ、アートを通じて子供たちの感受性や創造力を育むことを目的に、関西のアーティストによる小学生を対象とした芸術文化の体験授業など、実践的な試みを行う「学校アートプログラム」を2021年度後半から試み、今後、本格的に取り組んでいく。この取り組みでは教育関係者による評価システムを設け、その検証結果を以後の計画に反映させ、事業内容の充実を図る。

(3) 他の文化拠点との連携

芸術文化を共有する他団体との連携機会を捉え、組織の持つ文化力とネットワークをアーティスト支援に活用していく。その先駆けとして、2022年夏から「大阪中之島美術館」と連携し、関西の若手アーティストを対象に館内で作品展示を行い、今後の創作活動におけるモチベーション高揚に資することを狙っている。

V 関西ブランドの発掘と発信

(1) 食文化、歴史等のシンポジウム、映像化による発信

関西・大阪の文化力を高め、国内外にその魅力を発信していく為には、大阪のブランド力の向上が必要である。当協会は、これまで一貫してこれに取り組んできたが、「2025大阪・関西万博」後も、大阪が永続的に魅力ある都市であるためには、ブランド力をより一層、高めることが必要である。

当協会はこれまで大阪の大きなポテンシャルの一つである和食文化に着目した調査や情報発信に取り組んできたが、引続き幅広い視点で食文化の持つ奥深さを、シンポジウム等を通して探究し、さきがけとなるような提言等を発信していく。また、地域の歴史など関西の持つ魅力を映像やインターネットにより発信し広めていく。そのほか、住民が創造的に取り組む文化活動に対して、主催や共催、後援など様々な形で支援を行っていく。

(2) 他の文化拠点との連携とネットワーク化

今般のコロナ禍を契機に普及したオンラインのシステムを活用することで、「デジタルとリアルが融合」したコロナ後の新しい芸術文化表現の在り方を、関西の芸術文化団体や関係者と「社会実験」の機会等を通して追究する。また、芸術文化を共有する他団体との連携の機会を捉え、組織の持つ文化力の浸透を図るとともに、そのネットワーク化を推進していく。

VI 伝統の進化と創造

(1) 上方伝統芸能および伝統行事の保護育成

文化は常に創造が加えられ、受け継がれていく。伝統を磨き、進化する伝統を次世代に引き継いでいくのは私たちの責任である。大阪には多様で寛容な風土のなかで育まれた独特の上方伝統芸能があり、民衆の中に根を下ろして祭礼などの伝統行事に結びついている。人間の心が問い直されている今こそ、上方伝統芸能の真価を再発掘して光を当て、コレクティブ・インパクトなどの手法により「協奏と共創」を促して伝統の進化と創造に貢献しなければならない。歌舞伎、能・狂言、文楽、落語など上方の奥深い伝統芸能の振興、伝承と創造的発展を推進し、上方の伝統行事の保存にも取り組む。

(2) 「食博覧会・大阪 2025」での提案

関西・大阪 21 世紀協会は「食博覧会・大阪 2025」を共催する立場である。万博開催年と重なる次回開催には積極的に関与し、健康で長寿を掲げる万博の理念を「食」の視点から具現化した企画を提案。関西の和食の原点である「昆布だし」の生産、普及に深く関わってきた地域や事業者等とも連携していく。

VII 結節点機能の遂行

当協会は 2015 年に大阪で「北前船寄港地フォーラム」を開催した後、これを契機にその後の西日本地区で開催された同フォーラムのアドバイザー役を務めるなど、瀬戸内海、日本海地域との結節点機能を果たしてきた。この大阪でのフォーラムは、かつての北前船寄港地が日本遺産に認定される契機となり、寄港地の各市町が連携し、地元に残る史跡等を擁して「日本遺産」に申請。2017 年から 4 年にわたり、合せて 48 市町が日本遺産に認定されている。

関西各地にはその内の 10 市町が存在しており、そこに賛同団体が加わり、連携して日本遺産を活用した集客とその流動による地域の活性化を目指し活動している。当協会はそれら団体間を仲介し、引続き活動の円滑化を目指した支援を継続していく。

また、「食博覧会・大阪 2025」開催の際は、関西の食文化の発展を支えた北前船の歴史的意義を活かし、寄港地由来の食材の発掘と関西の食産業とを仲介することで、瀬戸内海から日本海側に散在する寄港地各地と関西各地域の活性化につなげていく。

VII 万博 2025 の機運醸成と連携

(1)大阪・関西万博の機運醸成

「2025 大阪・関西万博」開催に向けて、その機運醸成のために開催される種々の催しに際して、文化芸術色を加味しながら文化面から連携を進めていく。また、音楽・伝統芸能・舞台芸術・アート展示・パレード等のイベントに関しては、蓄積されてきた各方面との関係を活かし、状況に応じた連携を図っていく。

(2)関西・大阪の芸術・文化と観光との連携促進

「2025 大阪・関西万博」は、「文楽」、「能・狂言」等が代表する関西・大阪の伝統文化の発信とともに、これら伝統文化と海外の文化とのコラボレーション、若手アーティストの活動などを広く発信する大きな機会である。その周知、浸透は新たなインバウンドの誘致につながる要素であり、こうした機運醸成機会となるイベントに積極的に連携していく。

(3)中之島での文化芸術活動への参画と連携

「2025 大阪・関西万博」開催に向けて、中之島でも機運醸成に向けて文化芸術施設が連携したイベントが開催される。近隣でのそうした文化芸術活動に、様々な参加形態を選択して積極的に連携していく。

Ⅹ アクションプログラム

グランドデザイン(第5次)中期計画の目標年次は2022～2026年とし、それに基づき5か年にわたるアクションプログラムを策定する。ただし、コロナ禍の終息は未だ見通せず、また時代の趨勢は予測しがたいものがあり、各年度計画策定時において適宜、見直しを行うローリングプランとする。

第5次グランドデザイン行程表 — アクションプログラム

	2022(令和4)	2023(令和5)	2024(令和6)	2025(令和7)	2026(令和8)
				2025大阪・関西万博 食博覧会・大阪2025	
【助成と人材育成への支援】					
◆万博記念基金事業			助成、奨学金による人材育成		
◆アーツサポート関西			寄付方法の多様化と継続的なアーティスト支援		
◆次世代の人材育成			小学生対象のアートプログラムの実施		
◆顕彰			大阪文化祭賞、関西元氣文化賞 など		
【関西・大阪のブランドの発掘と発信】					
◆食文化、歴史等のシンポジウム、映像等による発信			オンラインも活用したシンポジウム、映像の発信		
◆他の文化拠点との連携、ネットワーク化			大阪中之島美術館等と連携した関西若手アーティストの支援		
◆事業紹介、関西文化を語る機関誌			「KANSAI*OSAKA文化力」の発行		
【伝統の進化と創造】					
◆上方伝統芸能、伝統行事の保護育成		「日本文化に親しむ」公演、上方伝統行事、季刊誌発行			
◆「食博覧会・大阪2025」での提案			万博理念を「食」から具現化した企画の提案		
【結節点機能の遂行】					
◆広域活動支援事業			北前船寄港地フォーラムの支援、日本遺産認定自治体の連携事業支援等		
【万博2025の機運醸成と支援】					
◆機運醸成			開催事業に文化面から連携		
◆会期中イベントの提案				文化イベントの展開	
◆開催に関する種々の連携			芸術・文化と観光の連携促進、中之島での文化芸術活動への参画、連携 等		
周年の状況	協会設立40周年		「万博記念基金」承継10周年 「アーツサポート関西」設立10周年		